

# 管内の概況

## 位置・気候

管内は、北海道南西部に位置する渡島半島と奥尻島などからなっており、東側は内浦湾から太平洋、南側は津軽海峡、西側は日本海にそれぞれ面しています。

気候は海洋の影響を受け、寒暖の差が比較的少なく、道内で最も温暖な地域です。海洋から高温多湿な空気が流入し、道内では比較的雨が多い方です。冬は日本海側で雪が降りやすいですが、内浦湾・太平洋側では函館市を中心に晴れやすくなります。

## 歴史

北海道で最も早く和人が定住したのは、12世紀末に津軽・糠部（ぬかのぶ）の人々が現在の上ノ国町付近に移り住んだのが始まりとされています。江戸時代になると北前船による交易が一層盛んになり、江差、函館、松前などは物流・商業の中心として繁栄しました。その後、日米修好通商条約により、函館は日本初の国際貿易港として開港したことを契機に諸外国の文化の影響を受けて発展しました。

## 産業

### 《農業》

北海道農業発祥の地であり、豊かな自然や温暖な気候を活かし、稲作、野菜、花き、果樹、酪農、畜産など地域毎に特色のある農業が展開されています。

近年の気候変動などを背景に海外のワイナリーが函館に参入するなど、管内各地で醸造用ぶどうの栽培に取り組みだしています。

### 《水産業》

古くからニシン漁で栄え、日本海・津軽海峡のイカ釣り・マグロ漁、太平洋・噴火湾のホタテ・コンブの養殖など多種多様な漁業が営まれており、地域の基幹産業として重要な役割を果たしています。

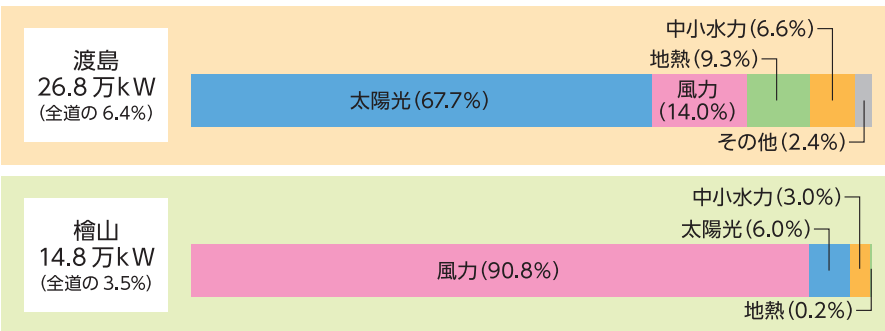
### 《観光》

北海道の玄関口として古くから栄えた道南には、道内の他地域と異なり多くの歴史遺産や文化遺産が存在します。また、大沼国定公園や4つの道立自然公園があるなど豊かな自然にも恵まれ、全国的にも人気の観光地となっており、国内外から多くの観光客が訪れます。

### 《エネルギー》

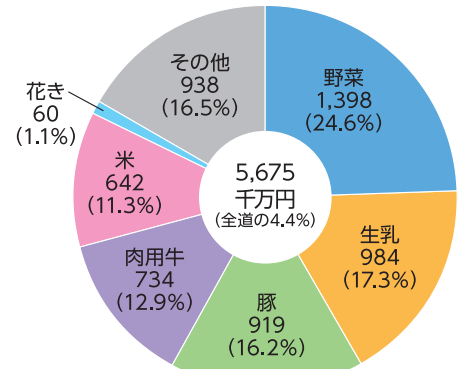
管内は、風力や太陽光、地熱など再生可能エネルギーの導入ポテンシャルを有しています。2050年カーボンニュートラルの実現に向け、管内自治体はゼロカーボンシティを表明するなど地域の脱炭素化に積極的に取り組んでいます。

## 管内における新エネルギーの導入状況(設備容量)



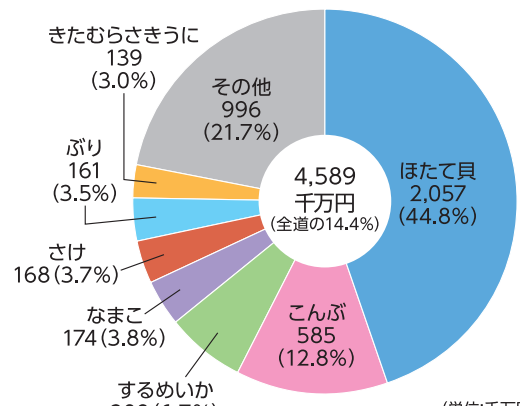
出典:「道内における新エネルギーの導入状況」(令和5年9月) 北海道経済部ゼロカーボン推進局

## 管内の農業産出額内訳



(単位:千万円) 出典:令和4年市町村別農業産出額(推計) (農林水産省)

## 管内の漁業生産高魚種別構成



(単位:千万円) 出典:令和4年北海道水産現勢 (北海道水産庁)

## ■ 新たな資源へ 管内の再生可能エネルギー

管内では、地域の特性やポテンシャルを活かした方法により再生可能エネルギーが積極的に導入されています。

奥尻町は「脱炭素先行地域」に選定され、地熱バイナリー発電所の増設などによりエネルギーの地産地消を目指しています。

また、檜山沖や松前沖が洋上風力発電の有望区域に位置付けられるなど、2050年のゼロカーボン北海道の実現に向けた取組が進められています。



奥尻地熱発電所「地熱生産井」



せたな町の風力発電施設「せたな大里ウインドファーム」

## ■ 世界文化遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群

令和3年7月に世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、北海道と北東北の地理的・自然的環境を背景に、1万年以上にわたって採集・漁労・狩猟により定住した人々の生活と精神文化を伝える17遺跡で構成されています。

令和5年3月、一般国道278号 尾札部道路の一部区間の開通により、構成資産である大船遺跡までのアクセスが向上し、世界文化遺産の訪問者数の増加に寄与することが期待されます。



国宝 中土壘(函館市所蔵)



垣ノ島遺跡と縄文文化交流センター(道の駅) 出典:JOMON ARCHIVES (縄文遺跡群世界遺産保存活用協議会撮影)